

第4回 首里城復興方針に関する有識者懇談会の概要について

- 1 日時:令和2年3月24日(火)9時30分～11時30分 (場所:ホテルサンパレス球陽館 2階パレスコートA)
- 2 出席者:8名 1. 安里 昌利(那覇空港ビルディング(株)／代表取締役社長) 2. 池田 孝之(国立大学法人琉球大学／名誉教授)
3. 下地 芳郎((一財)沖縄観光コンベンションビューロー／会長) 4. 崎山 律子(那覇市文化協会／会長)
5. 佐久本 武((一社)那覇市観光協会／会長) 6. 田名 真之(沖縄県立博物館・美術館／館長)
7. 玉那覇 美佐子(首里振興会／理事長) 8. 波照間 永吉(名桜大学／教授)
- 3 主な意見

主な議題	主な意見
首里城復興基本方針(案)について	<ul style="list-style-type: none">・ 復元過程の公開を通して、文化の本質を県民が学ぶ場として活用して頂きたい。・ 時間が係ると思うが収蔵庫や展示の問題を含め南殿、北殿の復元をどう考えるのか、県での提言も検討してほしい。・ 「多様で柔軟な施設の利活用」について、タイトルだけで誤解されないように、首里城が持つ空間の意味、威厳、品格等も大事に守らなくてはいけない。・ 県立芸大に修復コースをぜひ設置していただきたい。経年劣化に対応するためにも必要である。・ 計画につなげるためには財源が必要ではないか。それを方針の段階でも記載する方向で検討してほしい。・ 社会情勢など首里杜構想の見直しの視点を追記してほしい。・ 基本計画と並行して「新・首里杜構想」を検討する体制なりを検討していかななくてはならない。・ 中城御殿などの整備は中長期的な展望を示しておくべきである。・ 城下町としての交通環境、という視点から盛り込んで頂きたい。・ 「交通環境の整備」については、抑制ではなく周遊できる観光ルートを開発する等、利便性という視点で検討してほしい。・ まちづくり関連項目で、地域住民・団体の参加のニュアンスが抜けていると思われるので検討してほしい。・ 32軍司令部壕についての調査は活用する方向で前向きに検討してほしい。・ 全県的に学校教育の一環で、首里城を素材とした学べる機会、機運をこれまで以上につくる必要がある。・ 尚氏王統が琉球王国を統治していくなかで独特の歴史文化が形成されたことも首里城の魅力として発信すべき。・ 首里城は国頭の本を使って建てられており、龍頭は昔は小禄の石を使っていたと言われている。また、王府から中国への献上品には宮古上布が使われていた等、首里城には地域を学ぶ素材がたくさんある。・ 県が主体となり、世界に沖縄文化を発信する若手中心の劇団を構成し、首里城復元と沖縄文化の素晴らしさを伝える必要があるのではないかと。・ 「琉球文化のルネサンス」について、組踊だけでなく、古典音楽、舞踊、民俗芸能も含めて見つめ直す内容にしてほしい。・ 世界的には首里城への関心は低下しつつある。沖縄として声を上げ続けていく必要がある。・ 琉球文化を活用した産業振興は地域経済発展の取り組みとして課題である。伝統工芸を今の生活にどのように普及させていくのか、その様子を首里城公園のなかで見せていくことが必要。単発的なイベントではなく複合的に、琉球文化を感じられる取り組みとすると県内外の関心は高まるのではないかと。